

(様式3)

合流式下水道緊急改善事業 事業評価シート

評価実施年月：平成26年2月

1. 対象事業	新潟市合流式下水道緊急改善事業				
2. 実施主体名称	新潟市				
3. 計画期間	平成21年度～平成25年度 5年間 (全体計画期間 平成16年度～平成35年度)				
4. 対象事業の進捗状況	合流式下水道緊急改善計画の事後評価時点で、以下の改善対策を実施した。 ①汚濁負荷量の削減 ・簡易処理の高度化を図るため、中部下水処理場において高速ろ過施設を整備。 ②公衆衛生上の安全確保 ・万代地区貯留管を整備 (H16～H20 計画)。 ③きょう雑物の削減 ・白山ポンプ場でスクリーンの目幅を縮小。 ・万代ポンプ場で沈砂池のドライ化を実施。				
5. 目標の達成状況と達成の見通し	【改善目標】				
	改善項目	改善目標			
	①汚濁負荷量の削減	分流式下水道と置き換えた場合に排出する汚濁負荷量と同程度以下 (いわゆる分流式下水道並み) にする。			
	②公衆衛生上の安全確保	全ての吐口において、未処理放流水の放流回数を半減させる。			
	③きょう雑物の削減	全ての吐口において、きょう雑物の流出を極力防止する。			
	【目標の達成状況】				
	改善項目	評価指標	対策前 (平成15年度)	事後評価時 (平成25年度)	最終改善目標 (平成35年度)
	合流式下水道緊急改善事業	合流式下水道改善率	6%	58%	100%
	①汚濁負荷量の削減	BOD 汚濁負荷削減量	0 t/年	59 t/年	244 t/年
	②公衆衛生上の安全確保	未処理下水の放流回数	776 回	770 回	384 回
	③きょう雑物の削減	対策箇所数	0 箇所	9 箇所	24 箇所
	※合流式下水道改善率：合流式下水道により整備されている区域の面積のうち、雨天時において公共用水域に放流される汚濁負荷量が分流式下水道並み以下までに改善されている区域の面積の割合				
	【改善期限までの目標達成の見通し】				
	事後評価時点で、概ね計画どおり目標を達成しており、平成35年度の最終改善目標に向け、今後も着実な事業進捗を図る。				
6. 対象事業の整備効果の発現状況等	中部下水処理場の高速ろ過施設は、平成22年度に供用を開始しており、水質モニタリングにより30%以上のBOD除去率を確認することができた。 また、スクリーンの目幅縮小や沈砂池のドライ化を実施したことにより、雨天時に、大きなゴミや落ち葉、腐敗した雨水などの流出を防止することができた。				
7. 事業の効率化に関する取り組み状況	新技術を導入し、中部下水処理場において高速ろ過施設を整備することで、簡易処理の高度化を図った。 また、雨水流出抑制対策として、学校のグラウンドに雨水貯留施設の設置を進めており、合流式下水道区域内を優先的に整備している。				
8. 今後の方針	これまで実施してきた事業の評価を踏まえ、処理場やポンプ場の改築更新と整合を図ることにより、効率的かつ効果的に事業を推進し、合流式下水道区域全体の改善対策を平成35年度までに完了させる。 また、合流式下水道改善事業や下水道が担う役割について、市民の理解を深めるため、ホームページや市報などで積極的に広報を行う。				